

国際金融センターの条件と東京の戦略案

赤羽 裕 CMA

目 次

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. はじめに | 4. アジアの都市間競争 |
| 2. 国際金融センターとは？ | 5. 国際金融センター再挑戦の戦略 |
| 3. 東京の挑戦の歴史 | 6. 終わりに |

本稿では、「国際金融都市・東京」を掲げて、あらためて国際金融センターを目指している東京の取り組みを考えたい。国際金融センターについては、1980年代より盤石な地位を維持し続けるニューヨーク、ロンドンに加えて、シンガポール、香港、上海といったアジア諸都市との競争も激化している。国際金融センターの定義、歴史を確認するとともに、他都市の動向と東京の取り組みを評価した上で、戦略案も検討する。

1. はじめに

本稿は、アジアの金融ハブとなるべく、国際金融センターを目指す東京の取り組みを取り上げる。国際金融センターの定義や歴史ならびにその類型を確認した上で、これまでの東京の国際金融センター化への挑戦の経緯を述べる。その上で、アジアでの都市間競争の対象であるシンガポール、香港、さらに伸長する中国の経済力を背景に着実にその地位を高めている上海の取り組みも考察する。コロナ禍や米中対立など難しい時代であるが、アジアの都市間競争が激しさを増す中での、

東京の強み・弱みを確認・整理した上で、筆者なりの東京の戦略についても考察したい。

2. 国際金融センターとは？

(1) 定義と歴史

現在の東京の国際金融センター化に関する取り組みは、2013年に2020年東京オリンピック・パラリンピック招致が決定したことが契機と考えられる。官民から各種の提言がなされ、東京都も具体的な行動を開始した。そうした動きが、現在の「国際金融都市・東京」構想につながり、国も税



赤羽 裕 (あかばね ひろし)

亜細亜大学 都市創造学部 教授。1987年上智大学経済学部卒業、富士銀行（現・みずほ銀行）入行。国内法人営業担当後、アジア通貨危機当時のマレーシアで勤務。その後、為替管理業務、カスタディ業務担当などを経て、2016年4月より現職。銀行在職時に2007年3月亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科（MBA）修了。2011年3月埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了。博士（経済学）。専門は、国際金融・アジア経済。